

# 共生

奈良県生協連

2005年7月

NO.57

## 万葉のいぶきを求めてー(22)



藤原宮跡から見る香具山

春過ぎて 夏<sup>きた</sup>来るらし 白<sup>しろたへ</sup>妙の 衣<sup>ころも</sup>ほしたり 天<sup>あめ</sup>の香具山<sup>かくやま</sup>  
持<sup>し</sup>統<sup>とう</sup>天皇

あまりにも、よく知られた持統天皇の歌です。藤原京は持統天皇によって明日香から遷された都。その新しい宮殿から、目の前に広がる香具山の麓にひるがえる白い衣を見て、「ああ夏がやって来たんだなあ」と感じたのでしょうか。この「白たへ」の衣は香具山の埴（陶土）を採る人達の作業衣だったのでしょいか、それとも毎年夏に行われるお祭りに使われた衣だったのでしょいか。

この藤原京は日本で最初に作られた本格的な都城で、畝傍・耳成・香具山の和大三山に囲まれた中に位置しています。この和大三山の中でも香具山は最も古代の人々の心をとらえた山であったようで「天の」と冠したように神聖な山であり、支配者の国見の山であり、多くの記紀神話伝承にも語り継がれた山だったので。今日、山麓には「白たへの衣」ではなく、家々が立ち並んでいます。藤原宮跡から眺める姿は万葉の姿そのままに秀麗です。

# 第16期通常総会開催にあたって

奈良県生活協同組合連合会  
会長 逸見 啓

第16期通常総会の開催にあたり、総代の皆様には、平素から奈良県の生協運動にご協力いただきまして誠にありがたく、衷心より感謝申し上げます。

日本経済は回復基調にあるといわれるものの、国際的な原料・原油価格の高騰やアジア諸国の工業化の影響、国内では少子高齢化、年金・医療・介護など社会保障への不安もあり楽観はできない状況です。イラク問題、北朝鮮問題、中国・韓国との関係など国際的な動きも絡み、政治の動向も不安定、不透明度を増しています。

幼児・子供や高齢者を巻き込んだ凶悪な犯罪が多発し、異常気象やこれまでにない規模の自然災害が発生し不安が増大しています。また、私たち消費者を取り巻く環境は、企業の不祥事、多重債務、悪徳商法などによる消費者被害の拡大など多様化・複雑化・広域化しており、その対策が急がれています。

こうした状況の下で、会員生協はもちろんのこと、県民、友誼団体の方々と連携・協力をとりながら諸課題に取り組む、「開かれた県連・動きの見える県連を目指して」邁進したいと思っております。

安心して暮らせる地域社会作りに貢献した活動を強化しなければなりません。食品衛生法の改正、食品安全基本法の制定、食品安全委員会の設置など食の安全を確保する社会システムとして役立つものにしていく基盤ができましたが、今後、関係者の一層のご協力をお願いし実効性あるものにしていかなければなりません。また、38年ぶりに改定された「消費者基本法」ですが、これを受けて奈良県では「消費生活条例」の改定に着手しています。消費者の権利を実現できるように、ルールを整備や被害救済をするための体制を整え充実させていきましょう。

今年は被爆60周年で、憲法9条の問題も絡んで、暮らしの安心・安全に取って平和への取り組みが重要になっています。被爆者の高齢化とそれに伴う風化、北朝鮮の核保有の懸念、テロを含めた新たな核の拡散が懸念されるもとの、核廃絶に向けて草の根の声を上げて行きましょう。京都議定書の発効のもと、地球環境と人類の未来を守るための「生産・消費のあり方」を考え、将来世代への責任を果たすことに挑戦していきましょう。

くらしをめぐる問題の不透明性、一段の流通競争の激化も加わり、生協の事業と運動は厳しいですが、組合員の願いや思いの実現と地域社会の要求に取り組む、協同と助け合いの話と和と輪を奈良県のすみずみまで広げていきましょう。



総会関連	1～6	平和	7～8	環境	9
消費者問題	10～11	つながる連帯、ひろがる協同	12～14		

〈特集〉

## 第16期奈良県連総会

第16期奈良県生協連総会が去る6月18日(土) 奈良市「猿沢荘」にて開催され、代議員24名(委任2名を含む)とオブザーバー60名を超える参加で開催されました。

はじめに、県連逸見会長の挨拶の後、ご来賓よりご挨拶をいただき、大藪由美代議員(ならコープ)を議長に選出し、議案がとどこおりなくすすめられ全議案が採択されました。以下、ご来賓ご挨拶を要約。



### □ 県食品・生活安全課 課長 峯瀬清一郎 様

奈良県でも、認知症の高齢者をターゲットにした悪質な商法で被害がでており、7月にキャンペーンを予定している。今回は、特に高齢者福祉に携わる方々へ情報提供していきたい。

食の安全のアンケートを見ると消費者の不安は続いている。この点では、各事業者は信頼できる経営姿勢が求められている。そんな中で生協は自ら事業や活動をしており、問題解決する力を持っている。このことから消費者団体の県内のネットワーク作りに期待している。



### □ 奈良県農協中央会 専務理事 辻 政紀 様

県内単一JAになって、中央会の役割を再議論している。皆さんが取り組んでいる環境や街づくりなど検討したい。

昔、農家は高く売れることを考えて農業している面もあったが、今は消費者の声に耳を傾け、生産履歴の日記をつけていて、今は楽しみになっている。

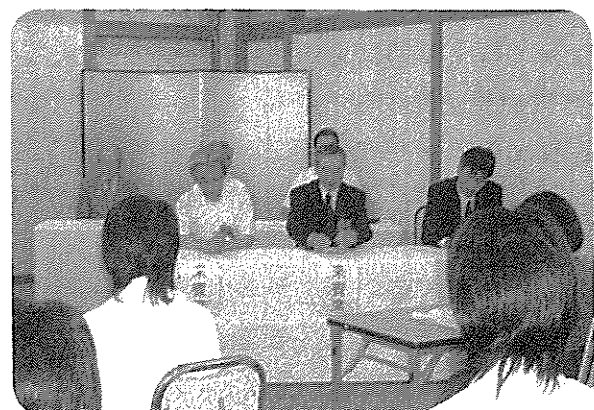
吉野川分水のお陰で奈良のお米もおいしくなった。ぜひ地産地消を協同の力で進めていきたい。



### □ その他ご来賓の皆様方

- ・奈良被爆者の会 会長 市原大介様
- ・奈良YMCA 所長 渡辺新久様
- ・日生協関西地連 担当 元山鉄朗様

また、森林組合連合会より祝電、その他近畿エリアを中心に全国各府県連及び大学生協関係連より、多くのメッセージを頂戴しました。誠に、ありがとうございました。



## ----- 2005年度「役員体制」について -----

今期、理事及び監事退任による補欠選挙が行われました。

### □ 新任理事ご挨拶

奈良県立大学生協 安村克己

残念ながら、私はこれまで生協の活動に参加したことがありません。昨年、奈良県立大学に赴任し、はじめて大学生協に加入し理事となりました。そんなわけで、生協の幅広い活動をどこまで理解しているのか、心元ありません。

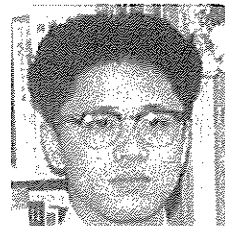


しかし、生協の理念は「共生」に根ざすのだと勝手に合点し、これからその理念の実現に向けて、生協の活動で自らの役割を果たしたいと考えています。どうぞ、よろしくお願いします。

### □ 退任監事ご挨拶

奈良県立大学生協 津田康英

01年から昨年度までに理事と監事をそれぞれ2期づつやらせていただきました。この間当生協にもいろいろな事があり、県連からは物心両面でのご支援を賜り、まことにありがとうございました。常勤の職員が派遣されて供給高がうなぎのぼりに上がり、常勤職員の存在に驚いている最中、リスク管理体制の死角をつかれる盗難事件が発生しました。



学内では生協の存続についてあらぬ風評もでましたが、連合会や所属の会員生協からの励ましの言葉や対策のアドバイス、さらには見舞金まで頂き、風評に動じることもなく、その後も順調に供給を伸ばすことができました。

ところで県立大生協の学生委員会は何かと元気な事で有名でしたが、学生相互の横の連携、特に奈良での学生の活躍の場を提供していただいたことも県連のお陰です。当初は元気だけが取り柄みたいところもありましたが、県連の支援で徐々に大学生らしい取組みができるようになったと思います。この度退任するにあたって、どのくらいの貢献ができたか振り返ってみると拙い限りです。実は97年に1期だけ理事になったときは右も左もわからず任期を終えました。その後再び理事になったときも少しはわかっているようなつもりでいましたが、実際はあたふたついて行くのが精一杯だったようです。

2年前に理事から監事になったときに、ようやく余裕がでてきて生協活動を客観的に観れるようになり、社会的意義も理解できるようになりました。連合会がこれまで重視してきた、食の安心安全や学生達を悪徳商法からまもる教育、平和への願いなどの重要性がますます高まっている時期に退任することは心残りもありますが、その一方で、学内のいろいろな先生方に生協活動に関心を持ってもらうことも同じく重要なのではないかと考えました。奈良に仕事を得てから10年になりますが、振り返ってみると海外研修の前後を除き、旗振り側にいたようです。これからは一組合員として生協活動に協力したいと思っております。

[なお、県連理事 県立大学生協 小松原 尚さんは、県連理事を退任されますが、引き続き、県連監事として今後も県連活動にご協力いただきます。よろしくお願い申し上げます]

# 各会員生協報告

## 1] ならコープ 堀脇純子さん



04年は創立30周年の年として、事業面では奈良市に2店舗開設、広報面では県民に対して六つの取り組みを約束、組合員活動面では環境・平和・子育て・福祉の各活動を充実させてきました。30年で組合員数は21万人になり、創立時のことを知らないという方が圧倒的ですが、歴史を振り返り、原点を見つめることができました。

## 2] 奈良高専生協 渡部英精さん、衛藤聖さん



組合員のひとことカードの記入がお大幅に増加しています。できるだけ速やかに実現していることが組合員の信頼につながっていると感じています。通学時の事故マップの取組みが内外から注目されました。今年はさらにバージョンアップしたいと思っています。TOEICで学校の経営についても協力できるようになってきました。

## 3] 奈良労済生協 高西正和さん



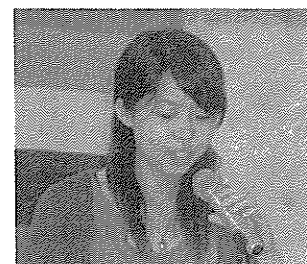
火災共済が発足して50年の年に大型の自然災害が続出しました。舞鶴の水害や新潟の地震には多数の職員を派遣しました。全労済全体15万2千人に約250億円の共済金を支払いました。防災メッセには労済生協として参加し、今後も災害時には少しでも組合員の役に立てるようにしていきたいと思えます。

## 4] 奈良県立大学生協 中谷志穂さん



新学期の活動では学生相談会を開催し、人のつながりができるようなスポーツ大会や食生活相談会など学生生活サポート企画とともにサマーパーティやお菓子の試食会をしながら売場作りをしました。水害が発生したときも募金活動やボランティアに参加しました。NPT再検討会議への代表派遣のための募金活動を積極的にすすめました。

## 5] 奈良教育大学生協 亀本有紀さん



新入生歓迎の取組みとして、各ホテルで受験生の相談会を実施し大変好評でした。また、新歓ハイク、料理講習会、各種ガイドブックの発行、食生活相談コーナーの開設などをし、新入生の不安を取り除けるよう活動してきました。学生委員の活動をもっとPRし、外に向けて広げていきたいと思えます。



**6] 奈良女子大学生協 屋根二九美さん・笠田喜芳子さん**



農体験サークルみどり組で大和郡山市の治道トマトの見学に行きました。できるだけ地元の野菜を食堂で提供しようと、新たにハウレンソウの扱いも開始しました。同時に地方物産を食堂のメニューに加えることも考えています。ベトナムの留学生、ドイツの留学生を囲んで各国の料理を楽しむ会も開いています。新入生歓迎の企画は好評で9割の参加があります。

**7] 大阪樟蔭女子大学生協 水谷恵美子さん**



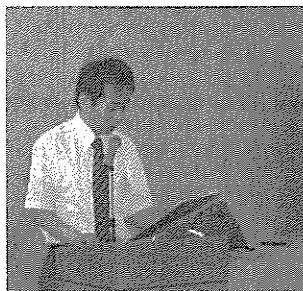
04年度は学生も全学年が揃い、さまざまな企画に取り組みました。カリキュラムの組み方講座、食生活相談会、アルコールの飲み方学習など、学生生活にかかわる関心事をテーマにしてきました。スターティングフェスティバルではエイズや地震をテーマにパネルなどを展示し、大きな反響がありました。

**8] コープ自然派奈良 宇野真紀子さん**



遺伝子組換え反対の講演会が成功し、組合員の学習意欲が高まっています。去年はピースリレーなど平和活動に初めて取り組み、役員レベルの意識も高まり、これから力を入れていきたいと思えます。消費者問題研究会もよい経験でした。また、組合員の問題意識にもとづいた自主活動を重視していきたいと思えます。06年度からスタートする中期計画づくりもしっかりおこなっていきます。

司会 小松原理事



議長 大藪さん



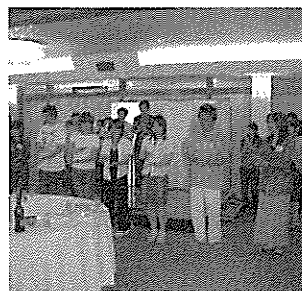
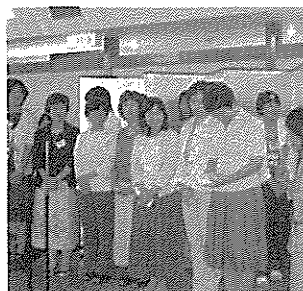
議案提案 宮崎理事



竹内理事



懇親会では各会員生協の取り組みで盛り上がりました!!



アピール 福富さん



# 第16期県連総会アピール

## 誰もが安心して暮らせる社会の実現を目指して 事業と運動を強めましょう！

日本経済は、一部業績回復が言われていますが、雇用と賃金は依然抑制されたままで、個人消費の回復に繋がる本格的な景気回復への道筋は見えない状況にあります。また生活面では、社会保険料のアップや、定率減税の縮小・廃止、年金制度等の先行きの不透明感や2007年以降の消費税率アップが論議され始めるなど、将来への不安が拡大しています。

そのような中、昨年5月に「消費者基本法」が成立したことは重要な意義があります。消費者被害の多発など消費者を取り巻く環境の多面的な変化は顕著であり、実効性のある施策をさらに求めてゆく必要があるとともに、消費者自らも意識改革が求められる時代にあると言えます。事業者としては、今年4月に施行された「個人情報保護法」含めコンプライアンス経営やリスクコミュニケーションに対する姿勢が問われます。

また昨年、世論の反対を押し切って自衛隊イラク派遣が延長されました。以来国内では、軍事力の保持や国際貢献のあり方を巡る論議から、憲法改定についての論議が徐々に本格化し、政党レベルの検討が日程に上がりつつあります。今年是被爆60年の節目の年、核兵器廃絶に向けた展望を切り開く年として、また包括的な平和への思いを思想信条を越え、広範かつ若い世代につなげて行くことが求められます。

この間の自然災害への支援、BSE問題含めた食品の安全、消費者政策等の取組みで、生協への期待が増しています。存在意義を高め地域社会に役立つよう社会的役割を發揮し、暮らしの安心を目指して積極的に提案し、そのひとつひとつを具体化・定着させることが、いまこそ強く求められています。

私たちは、多くの組合員の願いに応え、誰もが安心して暮らせる社会の実現を目指して、事業と運動を連帯・協力の力でより一層強める必要があります。また、コンプライアンス経営の確立のもと、事業・経営基盤をよりいっそう強固なものにし、組合員の暮らしに役立つ生協運動を展開することが大切です。

そして、食の安全・消費者政策・健康福祉・環境平和などの取組みを通じて、組合員の暮らしを守り生活文化の向上の実現を目指して共に頑張りましょう。

2005年 6月18日  
奈良県生活協同組合連合会  
第16期通常総会

## NPT(核不拡散条約)再検討会議がニューヨークで開催されました

5月2日から27日まで国連本部で核不拡散条約再検討会議が開催された。5年前の会議では大きな実りがあったこの会議も、今回は世界情勢を反映してか、政府レベルでは何の成果もなく終わることとなりました。会議の存続すら危ぶまれている中、市民が行動し新たな流れを作っていかなければなりません。この会議に呼応して市民レベルの取組みが4月30日～5月4日にかけて国連周辺で開催され、世界から平和団体が結集しました。日本からも被爆者団体協議会や日本生協連、平和団体が参加、日本生協連では主な取組みを紹介しています。

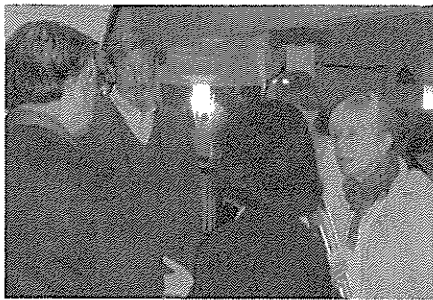
[http://www.co-op.or.jp/jccu/Press\\_Release/Press\\_050430\\_01.htm](http://www.co-op.or.jp/jccu/Press_Release/Press_050430_01.htm)

### 被爆60年企画プロジェクト(県生協連その他)では 10代と30代の2人の組合員を派遣

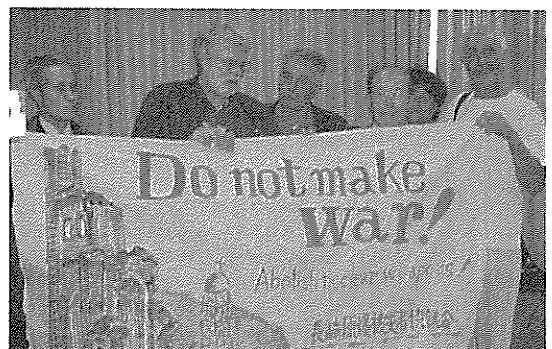
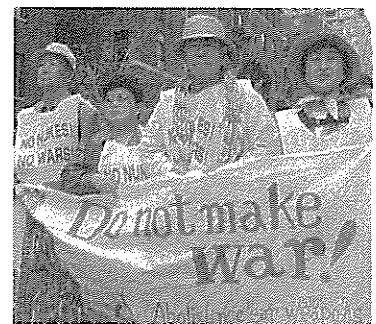
(朝守双葉さん(ならコープ))



「NPT再検討会議」合同代表団に参加してならコープからの代表派遣として2005年4月29日から5月6日までニューヨークに行かせていただき、国連本部で行われた「NPT再検討会議」の傍聴や周辺で行われたイベントに参加して、わかったことがあります。それは、被爆者に思いを寄せるひとびとが世界中にいて、ことばは通じなくても被爆者の怒りと悲しみを想像し自分の感情でこたえることで、彼らと平和への同じ思いをわかちあえる、ということです。しかし一方で、被爆者に共感しようとしな

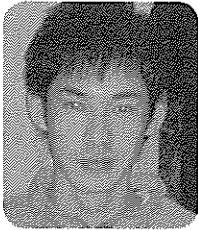


い、苦しみをわかろうとしない人々がいることもわかり、つらい思いもしました。国連原爆展も、場所や展示内容は厳しい制約を受けました。日本政府も米政府も、被爆者や核被害者の苦しみに耳を傾け、十分な補償をしようとはしていません。「影の存在」にしようとしている、とも言われます。それでもアメリカそして世界中には、あきらめずに核廃絶と戦争をなくすことに地道にまた大規模に取り組む人々がいるのです。そのことが強く私の印象に残りました。



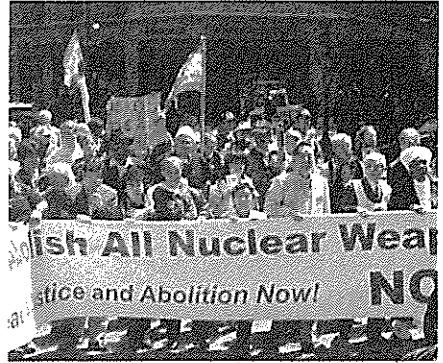


岡本拓郎さん(奈良県立大学生協)



私はニューヨークに行くまでアメリカ人は多くが戦争に賛成していると思っていた。デモ行進に参加したり、N. Y. の大学生と交流する中で平和を強く願っている人は多くいると実感しました。日本からも他の大学生や高校生が平和の思いを伝えていました。

N. Y. ではずっと被爆者の方々と行動を共にしましたが、谷口さんがおっしゃった「私は忘却を恐れる。忘却は新たな原爆投下を生む」という言葉や、畠山さんの「アメリカに来たくはなかった。でもアメリカの人にも被爆してほしくないから来た」という言葉が印象に残っています。多分私たちが直接被爆者の話を聞ける最後の世代になるだろうから、私たちがその思いを伝えていく必要があると強く思った。大学では少しでも興味を持ってもらうところから始めたいし、小さな力も集まれば大きな力に変わるし、世界中の人々が手をつなぎあって行動していくことで平和な世界が作れると確信しました。



被爆60年企画(予告)

ニュース23メインキャスター

筑紫哲也さんを囲んで!

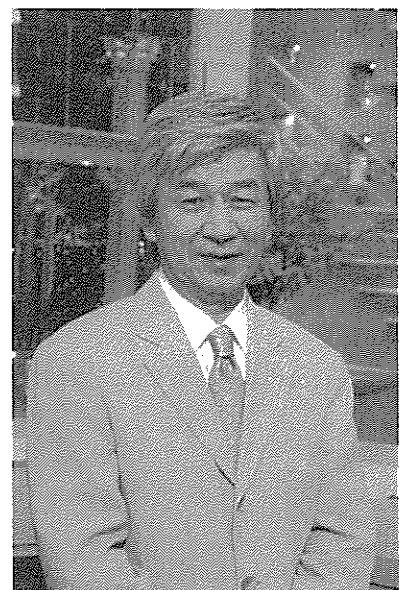
— 語ろう平和・考えよう世界の中での日本の役割 —  
「今、私たちができること」

参加型の平和を語り合う集会を開催します。

日時 2005年10月16日(日) 午後

場所 奈良県文化会館 国際ホール

\*企画内容は現在調整中、別途広報致します。



2005年4月24日 地球環境に優しく

# アースデー 2005 in なら 『大和川クリーン作戦』を開催しました！

世界が連帯して地球環境保護のために行動する「アースデー」にちなんで4月24日(日)、大和郡山市額田部南町の県浄化センター内自由広場で「アースデー 2005 in なら」をならコープと共催で開催しました。今年で16回目をむかえ、昨年同様今年も天候に恵まれ、主催者発表延べ600人の親子づれが参加し、「大和川クリーン作戦」として大和川沿いをゴミ袋と火バサミを持って川の両岸約300メートルのごみ拾いに取り組みました。



草むらには、空き缶やダンボールのほか、テレビや冷蔵庫などの家電製品も捨てられており、参加者からは驚きの声が聞かれました。



この日約1時間あまりで、回収されたゴミは、約2トン車2台分が集められました。

その他、広場では専用器具を使って簡単に水質実験ができるコーナーやフォーク歌手高石ともやさん「野の花の歌が聞こえますか？」と題したミニコンサートなども催されるなど、その他取組み含め参加者は楽しみながら、環境問題についておのおの考える機会になりました。

また、会場ではNPT代表派遣に向けた募金活動の一環として代表派遣する県立大生協の学生中心に、被爆60年企画プロジェクトとして約30名が壇上及び会場内募金の呼びかけを行い、多くのご支援をいただきました。

やまびこたる太鼓



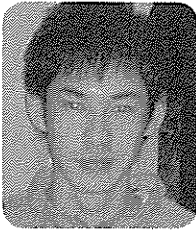
池田勝県環境政策課課長



高石ともやさんのミニコンサート



岡本拓郎さん(奈良県立大学生協)

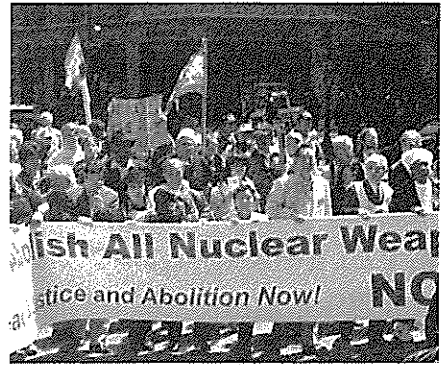


私はニューヨークに行くまでアメリカ人は多くが戦争に賛成していると思っていた。デモ行進に参加したり、N. Y. の大学生と交流する中で平和を強く願っている人は多くいると実感しました。日本からも他の大学生や高校生が平和の思いを伝えていました。

N. Y. ではずっと被爆者の方々と行動を共にしましたが、谷口さんがおっしゃった「私は忘却を恐れる。忘却は新たな原爆投下を生む」という言葉や、島山さんの「アメリカに来たくはなかった。でもアメリカの人にも被爆してほしくないから来た」という言葉が印象に残っています。多分



私たちが直接被爆者の話を聞ける最後の世代になるだろうから、私たちがその思いを伝えていく必要があると強く思った。大学では少しでも興味を持ってもらうところから始めたいし、小さな力も集まれば大きな力に変わるし、世界中の人々が手をつなぎあって行動していくことで平和な世界が作れると確信しました。



被爆60年企画(予告)

ニュース23メインキャスター

筑紫哲也さんを囲んで!

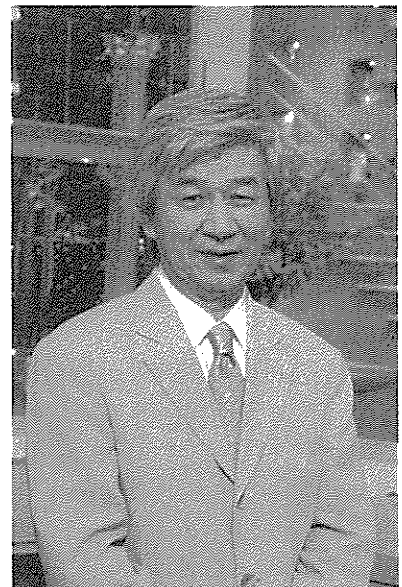
— 語ろう平和・考えよう世界の中での日本の役割 —  
「今、私たちができること」

参加型の平和を語り合う集会を開催します。

**日時** 2005年10月16日(日) 午後

**場所** 奈良県文化会館 国際ホール

\*企画内容は現在調整中、別途広報致します。



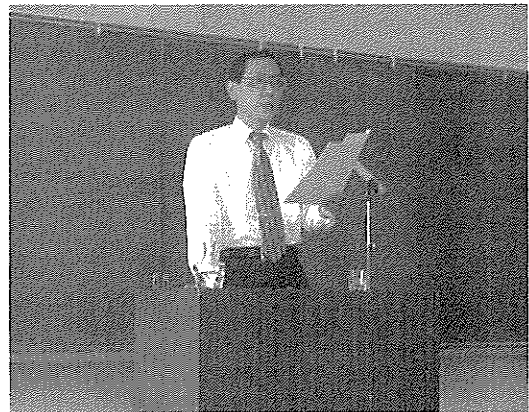
## 17年度「奈良県消費者団体交流プラザ」が開催されました

5月24日午後、食品・生活相談センターで開催され、県内消費者団体11団体 42名が参加しました。昨年、消費者基本法が制定され、消費者の権利と自立がいられていますが、そうした消費者を支える消費者団体の役割も変わりつつあります。今回は国民生活審議会消費者政策部会委員 品川 尚志氏(日本生活協同組合連合会 専務理事)を講師に迎え、「期待されるこれからの消費者団体の活動」をテーマに、この間の食品安全行政と新しい消費者政策についてお話いただきました。

### 講演の要約

● 国民生活審議会消費者政策部会委員 品川 尚志氏 (日本生活協同組合連合会 専務理事)

戦後、食中毒の防止から始まった食品安全行政は、高度経済成長が始まると新たな食品が開発される中で食品公害や添加物、農薬の残留などが課題になっていきました。ところが現在では、科学技術の高度化や国際化の中で今までの仕組みでは対応しきれなくなっており、例えば10年程前は発癌物質の有無が安全の判断材料でしたが、研究が進む中単純には言えなくなっています。公衆衛生上も「シロカクロカ」で判断できなくなっています。



● こうした問題点が指摘される中、02年BSE牛の日本での発生を機に大きく流れが変わり「食品の安全性の確保」と「国民の健康の保護の重要性」をうたった食品安全基本法が制定されました。これに伴ってそれまでばらばらだった国の食品安全行政が食品安全委員会の下、協調して進められるようになりました。今まで消費者にとって判りづらかった食品表示の統一はこうして実現しました。

又安全に対する考え方もより科学的に進めるよう食品の安全・安心を確保するためリスクアナリシス(分析)のシステムが取り入れられ、リスクアセスメント(評価)、リスクマネジメント(管理)、リスクコミュニケーション(情報・意見交換)を進めることで消費者の理解と信頼を高めるよう取り組まれています。食品の安全に係る関係者が情報を共有しながら「共考」し、消費者も含めコミュニケーション力を高めることが重要です。

もう一方で、消費生活を取り巻く問題では消費者被害が拡大しています。そんな中、消費者保護基本法が昨年 消費者基本法として大きく変わりました。今まで消費者は保護の対象で、被害の対策も後手後手になっていたものが、「消費者の権利の尊重及び自立の支援…」を理念にうたい、消費者行政も保護から自立支援に転換してきました。今この基本法に基づく基本計画が進められていますが、その大きなポイントは①消費者の暮らしの安全・安心の確



保 ②消費者の自立のための基盤整備 ③緊要な消費者トラブルへの機動的・集中的な対応、  
で関係機関がタイアップして対策が進められています。消費者行政を中身のあるものにし、  
消費者が参画していけるかどうかを消費者を含めた課題になっています。

消費者の自立を支援するために新たに準備されているのが消費者団体訴訟制度で、本来民事訴訟では被害を受けた当事者しか訴訟する権利を持ちませんが、消費者全体の利益のために消費者団体が訴訟できる権利を与えようというものです。この制度が有効に活かされれば被害の未然防止と拡大を防ぐことができます。今審議会の中ではいくつか制度内容で事業者と意見が分かれていてつば競り合いをしています。

このように今消費者を取り巻く日本の制度が大きく変わろうとする中、消費者団体も変わっていかねばなりません。かつては抵抗型・要求型の運動が中心でしたが、PL法制定運動を契機にして提案型・創造型の運動に変わってきています。全国消費者団体連絡会では「消費者運動ビジョン」を示し、行政に要求するだけでなく消費者団体自ら自立できる消費者育成を進めたり、専門家とタイアップしながら支援制度を活用したり、政策決定過程に参画していくことを呼びかけています。そのためにもぜひ皆さん方にも担い手育成やネットワークで力を発揮していただけるよう期待をしています。

(文責 編集者)

## 消費者問題研究会「こむらいふ奈良」が発足しました。

こむらいふとは？ 共に(com) 暮らし(life) を良くしようという造語です。

昨年秋から準備をすすめてきた県連を呼びかけ人にした「消費者問題研究会」(仮)が6月6日に三団体を含む10人でスタートしました。

代表にならコープの辻由子さん、副代表に王寺生活学校の鎌倉さんを互選し、今年度の課題を協議しました。

今年度は「消費者契約に関するトラブル」の調査をし、行政・県民・事業者へ提言にまとめること、消費者には被害を認識していない人もいるのでは、という仮説の下、意識と実態調査に取り組む事としました。





# つながる連帯・友好の輪

コープ自然派奈良 中村 恭子

毎年総代会が終わるたび、改めて、生協は組合員のものだなあと実感し、また、理事としての資質の向上に努めなければ、と身が引き締まる思いがします。

走り出した2005年度は、初めての試みとして、中期計画策定に取り組もうと考えています。既存の委員会活動・テーマ活動などを、できあいのものではなく、より親しみやすく、組合員自らが企画・運営に参加しやすい形にするにはどうすればいいか…など、なりたい生協、求める姿をみんなで考え、コープ自然派奈良の理念とビジョンを発展させていきたいです。

商品に関しても、顔の見える関係を大切にしつつ、農薬の残留調査や商品全般のトレサビリティの拡大など、安全性の確保に努めたいと考えています。また、BSE、遺伝子組み換え食品など、食に関する情報の収集と発信を継続的に行うとともに、組合員はもちろん、地域の方も参加可能な勉強会・講演会にも積極的に取り組んでいきたいと計画を進めています。

奈良女子大学生協 竹内 繁

今年特に大切にしたいことは、

- ・元気で明るい地域づくりを大学と一緒に！（下宿の大家さんや町内会の役員さんとの交流）
- ・奈良女を目差す受験生・卒業生とのつながりを広げていける活動します。
- ・新入生を多くの先輩と一緒に楽しく迎える！（友達づくりのお手伝い。がんばれ受験生メッセージを全国の先輩から）
- ・就職活動や自分探しを応援する！（インターンシップ・就職活動について先輩の話や体験を）
- ・クラブ・サークルの応援！
- ・奈良女生協の知らせる活動！

週間NaNaNa、ホームページ、職員NaNaNa、故郷(保護者)NaNaNa・卒業生NaNaNa等

- ・生総合共済と健康・安全の取組みを広げます！食生活相談・自転車無料点検・お昼休みなんでも相談
- ・環境に優しい取組み！（レジ袋の減少・省エネ・学内ゴミ対策協力、カップ回収機や分別収集）
- ・院生・留学生の生活を応援する！
- ・お店の職員が組合員と共に楽しくなる取組みをすすめます。
- ・元気で明るい附属中等教育学校のお店作りします！

以上 先生・生徒・保護者のアイデアを集め取組みを進めます。



今年度大切にしたい事は

- 1) 組合員の声大切に活動を進めます。
- 2) 大学の各構成員の要望を聞き、大学の協力をえてその実現に取り組めます。
- 3) 生協と組合員との出会いの場、おしゃべりの場を積極的に広げていきます。
- 4) 組合員への情報をもっと大切にします。
- 5) 京滋・奈良地域の大学生協及び奈良県連との連帯活動を積極的に進めます。
- 6) 自治会、大学祭実行委員会、体育会、文化会、新聞会、寮委員会等学内の諸団体との協力共同の関係を強め、学生の元気が醸成されるよう努力いたします。
- 7) 大学の理解と協力のもとに福利厚生施設の拡大と充実をはかります。
- 8) 院生、教職員に対する出資金増強運動を積極的に展開いたします。

の8項目になりますが、特に総代会の要望である3つの点、第1に朝9.30～の購買部営業実験、第2に夏祭での宣伝強化とスケールアップ、第3に大学との話し合いを促進し、福利厚生への考え方の整理、自販機等の増設を実現すべくチャレンジしていこうと思っています。

奈良高等専門学校生協 店長 林 伸幸

奈良高専生協では5月19日に第9回通常総会を開催し、組合員とともに進めるお店づくりを軸とした活動方針を採択し、新役員を選出しました。前年度に引き続き、

- ・理事長 木村 倫幸（一般教科教員）
- ・務理事 大谷 真弘（電気工学科教員）
- ・理事 林 伸幸（店長）

の体制で、日々の活動を推進します。

先日の県連総会でも報告しましたように、「ひとことカード」や日常の会話を大事にし『組合員とともに作り上げていくお店』を目指して取り組む1年とします。いろいろな活動を通じ『おもしろい・楽しい高専』づくりに、生協が少しでも関わられるようになれば、と考えています。またこういった活動を発信し、全国の高専に生協設立の輪を広げていくことを目標としたいと思っています。今後とも、県連会員生協のみなさんのご協力とご指導をよろしくお願いいたします。

大阪樟蔭女子大学関屋キャンパス生協 店長 羽賀 省三

来年設立10年を迎えるために理事会を中心に10周年記念行事等を計画しています。

設立以後、紆余曲折ありましたが何とか経営的にも安定しました。学生委員会も自分たちの興味関心から元気に幅広い取り組みをすすめるようになってきました。

今年度生協として大切にしていきたいことは、引き続きになりますが、さらに魅力的な大学、有意義な大学生活を送れるように、組合員とともに様々な要望を実現していける生協であり続けたいと思います。特に近年就職活動にて、「将来の自分のビジョンのために大学時代に何を準備してきたか！」と厳しく自己分析を迫られるようになってきました。生協としても大学生活を有意義に過ごすためのお手伝いとして「大学生活に目的をもって過ごし、振り返ったときに自分自身に自信の持てる」組合員が多く育っていける環境を作ればと思っています。

今年で総会も第10回を迎えました。そんな区切りの今年から、大学のカリキュラム変更により、食事を取れるまとまった休憩時間がなくなってしまいました。しかし、そんな時だからこそ、大学での生活が今まで以上に忙しくなっている組合員にとって、「優しく憩いの場である生協を、これまで通り大切に継続させていく」ことが重要になっています。

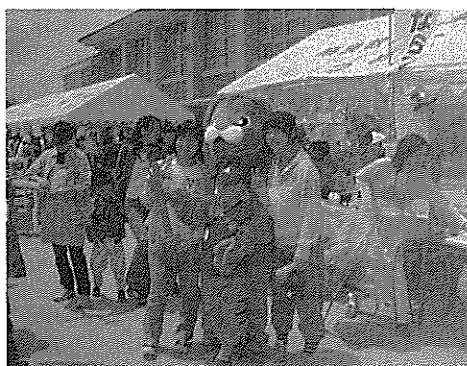
とりわけ『食』を中心とした生活改善の取り組みを行なっています。夜間の大学生は生活サイクルの乱れも多く、食生活も乱れています。「食生活相談会」などで栄養士さんから指摘を受けたときは見直すことが出来ますが、その後継続することは難しいようです。

今年は、継続的に生活改善を意識できる、また継続しやすく感じられる工夫を行なっていきたいと思います。また今年も、各国での戦争や戦後60年ということから学生の中でも意識が広がっている、平和への取り組みも行っていきたいと思っています。まずは事実を組合員と一緒に学ぶ活動を行い、想いを交流していきたいと思います。



## 広がる協同・くらしの輪

### □ 「つながり祭」が開催されました。



5月15日今年24回目を迎え、広く障害者への理解を深めてもらう目的で、奈良教育大学附属小学校グラウンドで、開催され延べ3000人が来場しました。今年、奈良生協連は地域生協 ならコープ北ブロックの組合員・職員とともにブース出展を行いました。加えて、教育大・県大等大学生協学生も十数名支援参加があり、例年に無い盛り上がりを見せました。

その他にも福祉法人・作業所、労組などさまざまな団体のブースが軒を並べ、手作り品のバザーやゲームコーナー・模擬店などに多くの親子づれで賑わいました。

県連・ならコープのブースでは、産直治道トマト及びミックスキャロットジュースの試飲販売を行い。コープ商品の及び生協の取組み等について来場者にアピールを行いました。



# 県連日誌

## 4月

5日日生協地区別代議員会議  
19日地連運営委員会  
臨時府県連協議会  
24日アースデイ  
27日被爆60年企画実行委員会  
29～5/6日NPT再検討会議

## 5月

13日近畿厚生局訪問  
15日奈良食文化研究会総会  
つながり祭  
24日県消費者団体交流プラザ  
25日監事監査  
27日ピースリレー実行委員会  
31日関西消費者団体懇談会(関西電力)

## 6月

2日県新長期ビジョン策定委員会  
6日消費者問題研究会[こむらいふ奈良]  
16～17日日生協総会  
18日県連総会  
22日食の安全懇談会  
26日ピースリレー京都引継ぎ  
29日近畿地区府県連協議会(京都)  
30日ピースリレー大阪引継ぎ

# お知らせ

## 【県連会長賞募集】

毎年、会員生協の中で、環境・福祉・文化活動を活発に行っているサークルを表彰します。活動の内容を原稿用紙2枚程度にまとめて、県連事務局までお送り下さい。

- \* 環境・福祉・文化活動など 3団体
- \* 副賞 2万円 締め切り 9月23日(金)

積極的にご応募下さい！

## 編集後記

わかくさの会副会長の 大月節子さんが75歳で亡くなられた。静かな口調で聞かされていた彼女の被爆体験は想像を越えるものだったが、いつも笑顔を絶やさず請われればどこにでも行って話してくださいました。こんな体験は誰もしてほしくないと思うのに、国連のNPT「核不拡散条約再検討会議」は何の裏りもなく終わり、将来に不安を残しました。ただ今回ニューヨークに奈良県から10代、20代、30代3人が参加し、若い人たちに関心が広がったことに、ちょっと安心しました。(迪)

世間では、から梅雨が続いています。梅雨はどこへ行ってしまったのかと思ってしまうほどです。天候が不順で野菜の価格が一部暴落、水源地での水不足、反面、局地的な大雨等、今年も異常気象(?)なのでしょう。昨年の台風の中接近が思い出されます。何か地球が悲鳴をあげているようで、クールビズでネクタイを外し、冷房を入れるのを我慢して、環境にやさしい生き方に徹しようががんばっています。暑さには脱帽です。昨年はそんなにつらくなかったように思うのですが、今年はずっとつらいですね。また、1つ年を取ったせいもあるかな。(正)